

企
画
展

民藝から100年

手仕事の魅力



能 翁 [泉亮明作 国友敬三彩色]



鉄八角鐺
銘江州國友住丹波作



網織紬



長浜湖東焼
染付花卉に漢詩書付急須



長浜湖東焼 煎茶茶碗

令和8年

1月20日(火) ~ 3月1日(日)

午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日:月曜日、祝日の翌日

会 場: 浅井歴史民俗資料館 1階展示室

入場料: 大人350円(団体300円) / 小中学生150円(団体130円)

※団体は20名以上。長浜市・米原市の小・中学生は無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方及びその付添いの方1名は無料。
(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)



和讃卓



浅井歴史民俗資料館

〒526-0251 滋賀県長浜市大依町 528 (浅井文化スポーツ公園内)
TEL/FAX 0749-74-0101 E-mail rekiminn@city.nagahama.lg.jp

手仕事の魅力

大正末期、思想家・柳宗悦(やなぎ・むねよし、1889～1961)によって提唱された「民藝運動」。日常的に使われる丈夫で美しい手仕事の品々を「民衆的工藝」と名付け、新たな価値が見出されました。

この展覧会では、「民藝」から100年を記念し、手仕事で作られた暮らしの道具・陶器や磁器・木工・織物などを紹介し、地域の人々の生活に根ざした「美」に触れていただく機会にしたいと考えます。

主な展示資料

●長浜湖東焼 明治時代 個人蔵

長浜湖東焼は、長浜の医師西村善吾が明治3年(1870)、自邸に窯を築いて始めたやきもの。長浜は、地理的には湖東ではなく湖北に位置するが、長浜湖東焼では湖東の銘が使われており、湖東焼のブランドを継承する意図をもって焼かれたやきものといえる。西洋の水彩画を思わせる華やかな花模様をあしらった絵付作品が比較的多く見られる。



●常喜椀 明治19年(1886) 個人蔵

常喜村(現長浜市常喜町)では、江戸時代を通してお椀がつくられていた。この椀は日常普段に使うもので、使いやすく、口あたりが良かったことから、明治・大正期にはよく利用されたという。



●丸盆 国友翠谷作 昭和 個人蔵

国友町出身の国友栄太郎(1891～1950)、翠谷と号す。国鉄勤務の傍ら床置などの美術品や盆や筆立てなどの実用品を制作する他、果物の作品などが多く見受けられる。

展示説明会 民藝から100年 手仕事の魅力

※聴講料無料(ただし、当日の入館券が必要)、申込不要

日時 令和8年1月31日(土)午後1時30分から

会場 浅井歴史民俗資料館

浅井歴史民俗資料館

〒526-0251 滋賀県長浜市大依町528(浅井文化スポーツ公園内)
TEL/FAX 0749-74-0101 E-mail rekiminn@city.nagahama.lg.jp

□開館時間/9:00～17:00(入館受付は16:30) □休館日/月曜日

□入館料/大人350円 小中学生150円(団体割引20名様以上 一般300円 小中学生130円)

※長浜市・米原市の小中学生は無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方及びその付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)



【交通アクセス】

○JR長浜駅から車で約20分

○北陸自動車道・長浜ICから約10分

○湖国バス高山線で浅井三姉妹の郷下車徒歩約10分